

半導体漫遊記

335

湯之上隆

米調査会社ガートナーが1月26日、2023年の半導体売上高ランキング・トップ10の速報値を発表した。ガートナーは、このようなランキングにファウンドリーを含めない。そこで1月18日に決算発表を行ったTSMCをガートナーの発表に加えて、ランキング・トップ11を作成してみた。

普及するとともに、AI(人工知能)サーバーに搭載するためのAI半導体としてNVIDIAのGPU(画像プロセッサ)が引っぱりだこになった。その結果、NVIDIAの基幹製品のH100やA100が1個

普及するとともに、AI(人工知能)サーバーに搭載するためのAI半導体としてNVIDIAのGPU(画像プロセッサ)が引っぱりだこになった。その結果、NVIDIAの基幹製品のH100やA100が1個

のサムスン電子が大きく売上高を落とす中、TSMCは「成長率のマイナス幅がまし」だったために、かろうじて1位を維持した。TSMCの23年の決算発表を見ると、5nmと3nmの先端ノードの売上高が好調である反面、7nm、16nm、28nmなどの成熟ノードの売上高の減少が続いている。TSMC熊本の本第1工場では28nmと16nm

を生産することになっており、第2工場では7nmの生産が計画されている。しかし、果たしてTSMC熊本工場でつくるものがあるのかという懸念を抱かざるを得ない。

さらにTSMCの四半期のウエハ出荷枚数は22年第三四半期(Q3)に過去最高の約400万枚を記録したが、23年Q2には約100万枚少ない状態に落ち込み、同年Q4もその状態が

「VIAのGPU祭り」が続くと考えられるため、24年にはさらにランクを上げると予測される。

「VIAのGPU祭り」が続くと考えられるため、24年にはさらにランクを上げると予測される。

「VIAのGPU祭り」が続くと考えられるため、24年にはさらにランクを上げると予測される。

「VIAのGPU祭り」が続くと考えられるため、24年にはさらにランクを上げると予測される。

NVIDIAだけ高成長

23年売上高1位のTSMC苦境続く

500〜600万円の高値で取引される事態となり、NVIDIAの売上高が急拡大したのだ。

500〜600万円の高値で取引される事態となり、NVIDIAの売上高が急拡大したのだ。

500〜600万円の高値で取引される事態となり、NVIDIAの売上高が急拡大したのだ。

その結果、1位はTSMC、2位は米インテル、3位はサムスン電子、4位は米クアルコム、5位は米ブロードコム、6位は米NVIDIA、7位はSKハイニックス、8位は米AMD、9位は欧州STマイクロ、10位はアップル、11位は米テキサスインスツルメンツ(TI)となった。日本企業は1社もランキングしなかった。

その結果、1位はTSMC、2位は米インテル、3位はサムスン電子、4位は米クアルコム、5位は米ブロードコム、6位は米NVIDIA、7位はSKハイニックス、8位は米AMD、9位は欧州STマイクロ、10位はアップル、11位は米テキサスインスツルメンツ(TI)となった。日本企業は1社もランキングしなかった。

その結果、1位はTSMC、2位は米インテル、3位はサムスン電子、4位は米クアルコム、5位は米ブロードコム、6位は米NVIDIA、7位はSKハイニックス、8位は米AMD、9位は欧州STマイクロ、10位はアップル、11位は米テキサスインスツルメンツ(TI)となった。日本企業は1社もランキングしなかった。

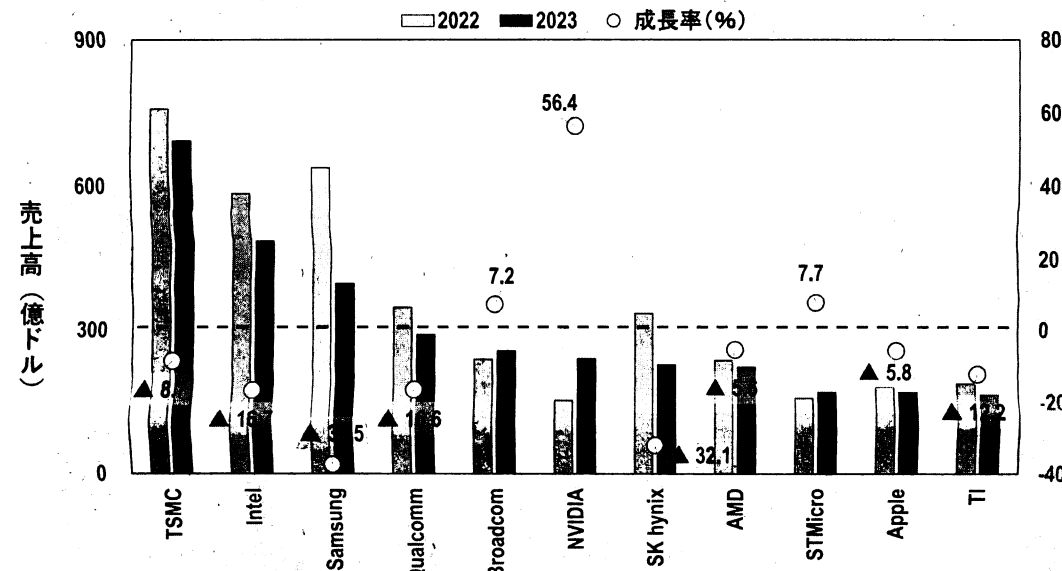
その結果、1位はTSMC、2位は米インテル、3位はサムスン電子、4位は米クアルコム、5位は米ブロードコム、6位は米NVIDIA、7位はSKハイニックス、8位は米AMD、9位は欧州STマイクロ、10位はアップル、11位は米テキサスインスツルメンツ(TI)となった。日本企業は1社もランキングしなかった。

23年のランキングの特徴は、何と云ってもNVIDIAの大躍進にあるだろう。22年11月にChatGPTが公開されて世界中に

23年のランキングの特徴は、何と云ってもNVIDIAの大躍進にあるだろう。22年11月にChatGPTが公開されて世界中に

23年のランキングの特徴は、何と云ってもNVIDIAの大躍進にあるだろう。22年11月にChatGPTが公開されて世界中に

23年のランキングの特徴は、何と云ってもNVIDIAの大躍進にあるだろう。22年11月にChatGPTが公開されて世界中に



半導体売上高ランキングトップ11と成長率

出所: ガートナーの速報値(1月26日)とTSMCの決算発表(1月18日)を基に筆者作成